

整理番号	16-6	事務事業名	集団資源回収奨励金助成事業	作成部署	市民環境部環境課	電話	内線826	
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	滝本 明	課長職名	奥野 章	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	H12	根拠法令等	北広島市集団資源回収奨励金交付要綱					
〃 終了予定年度								
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	資源回収の促進とリサイクル意識の高揚を図り、資源の有効利用の促進を図るとともにごみ減量化により、最終処分場の延命化に寄与する。							

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	環境と共生する快適なまち	(第 2 章)
	節	廃棄物とリサイクル	(第 4 節)
	施策	ごみの減量化とリサイクル	(第 1 施策)
目的(ここから成果指標を導きます)	対象(誰、又は何を)	資源回収団体及び集団資源回収の対象となる資源物	
	意図(何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	奨励金の交付することにより、資源回収の団体を増やし、資源回収の促進とリサイクル意識の高揚を図る。	
手段(ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等)の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	資源回収団体が回収業者に引き渡した資源の総重量に対して1kg当たり3円を交付する。
		17年度	同上

2 実施(ドウ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財	6,000	6,890	7,391	6,890
	一般財源	828	173		810
	合計	6,828	7,063	7,391	7,700
人件費(概算)	人数(年間)	0.10	0.10	0.10	0.10
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	900	900	900	900
総事業費 +		7,728	7,963	8,291	8,600

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	回収団体登録数	102	110	115	120
	奨励金交付額	6,741	7,020	7,300	7,550
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	交付金申請団体数	98	98	115	120
	資源回収量(kg)	2,248,363	2,340,000	2,433,000	2,516,000
	処分場の延命日数	41.3日分	42.9日分	44.6日分	46.2日分
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	1団体当たり交付額	68,800円	71,600円	63,500円	62,900円

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	ごみの減量化は、社会的課題となっており、減量化されることにより市の最終処分場の延命化が図られる。また、資源回収することにより、資源ごみを有効利用することの啓蒙啓発が図られる。登録団体数も資源化量も増えつづけており、この奨励金制度は、石狩管内の全市で行われている。
---------------------------------	---

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	市内で発生する一般廃棄物の処理は、市にその責務があり、資源ごみの有効利用、ごみの減量化と最終処分場の延命化に寄与することから、市が実施すべきである。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	資源となるものがリサイクルされ、ごみの減量化につながるとともに、最終処分場の延命化にもなる。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	市に登録した団体に、資源の回収量に応じて奨励金を交付しており妥当である。	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない		

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	実施団体数、回収資源量とも毎年増えており、市民が自ら進んで資源回収を図ることからも成果がある。今後は回収団体の組織されていない地区への実施啓蒙を進めたい。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	市では、登録団体の受付け(随時)、助成金の申請受付け(年2回)と審査、助成金の交付をしており、概ね効率的である。	

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	集団資源回収実施団体数の増加及び回収資源の拡大を図りながら、資源ごみの有効利用、リサイクルの増大、ごみの減量化に繋げていく。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	1次評価のとおり